賀詞交歓会とJNSA賞授賞式のご報告

賀詞交歓会

JNSAの賀詞交歓会は2002年から開催され、2008年までに7回開催されてきています。初回から参加者は100名を超え、2007年、2008年は150名ほどの参加者にお集まりいただきました。

2002/1/28(月)　アルカディア市ヶ谷
2003/1/22(水)　アルカディア市ヶ谷
2004/1/27(火)　東京グランドホテル
2005/1/17(月)　八重洲富士屋ホテル
2006/1/23(月)　八重洲富士屋ホテル
2007/1/23(火)　八重洲富士屋ホテル
2008/1/15(火)　八重洲富士屋ホテル

今年は、内閣官房情報セキュリティセンター 情報セキュリティ補佐官 山口英氏、経済産業省 商務情報政策局 情報セキュリティ政策室室長 三角育生氏、総務省 情報通信政策局 情報セキュリティ対策室室長 河内達哉氏にご挨拶を頂き、独立行政法人 情報処理推進機構(IPA) 理事長 藤原武平太氏に乾杯の音頭をとっていただきました。この他にも多くの政府関係や公益法人の方々にもご参加頂き、情報セキュリティの現在や今後のことなど、熱い議論があちこちで沸き起こっていました。

JNSAの賀詞交歓会は、当初よりフランクな雰囲気の飾らない意見交換の場としても機能しており、WGの参加者をはじめ、実際の活動を担っていただいている方々の情報交換も活発に行われています。このような忌憚のない意見を出し合えるのが、JNSAの賀詞交歓会の特色のひとつかもしれません。

このような中で、JNSA表彰の授賞式も執り行われました。

JNSA賞授賞式

JNSAでは、情報セキュリティ向上のための活動を積極的に行い広く社会に貢献した、あるいはJNSAの知名度向上や活動の活性化等に寄与した個人、団体、JNSAワーキンググループを対象に表彰を行う「JNSA賞」を2006年度に発足いたしました。

この賞は、情報セキュリティの向上に寄与された方々を広く紹介し、その活動を称え、更に積極的な活動をしていただけるよう、設置したものですが、広く社会に情報セキュリティが根付く発端となり、より良い社会を実現できる一助になればと考えています。

2回目の今年度は、2007年9月にJNSA賞の趣旨に沿う活動に貢献した個人、団体、JNSAワーキンググループ の推薦を自薦、他薦で募集し、10月の幹事会で推薦候補者を決め、11月に佐々木会長と各部会長の選考委員会で受賞者を決定しました。賀詞交歓会で行われた授賞式で、各受賞者への表彰状・表彰楯・金一封が授与されました。今後のご活躍をお祈りするとともに、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

個人の部（1 件）

◇活動成果が社会に対して広く認知され、セキュリティの向上に貢献

大溝 裕則 氏（株式会社 JMC リスクマネジメント）

セキュリティリテラシーベンチマーク作成 WG のリーダー、被害調査 WG メンバー、インターネット安全教室講師など、JNSA の活動主体である各 WG や活動に積極的に参加し、JNSA の活動ならびに情報セキュリティの向上に大きく貢献。

ワーキンググループ（WG）の部（1 件）

◇ WG の活動成果が社会に対して広く認知され、セキュリティの向上に貢献

情報セキュリティチェックシート WG

（WG リーダー：富士通関西中部ネットテック株式会社　嶋倉 文裕 氏）

2004 年度から地道な活動を実施、今年度は近畿経済産業局や IPA などからも活動が評価を受けており、西日本での JNSA の知名度向上と情報セキュリティの向上に大きく貢献。

特別賞（3 件）

◇インターネット安全教室を中心とする情報セキュリティ普及啓発活動を活発に実施することにより、広く一般社会のセキュリティ知識の向上に貢献

上田市マルチメディア情報センター（所長 清水 卓爾氏）

特定非営利活動法人ナレッジふくい（理事長　高嶋 公美子氏）

特定非営利活動法人東海インターネット協議会（理事長　中田 平氏）

イベント開催の報告

Security Day 2007 ご報告

Security Day 2007 の歴史

Security Dayは、もともとはInternet Weekで開催されていました。JNSAの発足当初から続いているカンファレンスですが、2003年にそれまで独立して開催していたJNSAとJPCERT/CCが共催という形でひとつにまとまりました。更に2005年にはTelecom-ISAC japanも加わり3団体で共催するようになりました。

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
JNSA	独自	独自	独自	SD	SD	SD	SD
JPCERT/CC	独自	独自	独自	SD	SD	SD	SD
Telecom/ISAC				SD	SD		

SD=Security Day

Internet Weekの歴史や、Security Dayも含むプログラムなどは、下記のURLを参照してください。

http://internetweek.jp/outline/index.html

Internet Weekは1997年にそれまでのIP meetingを拡張する形で、色々な団体が集まって開催され、以降、10年にわたって継続して開催されてきましたが、Internetの技術も社会的な使命も変化があり、より濃い議論をしたいということで、再出発することになりました。

これに伴い、それまでInternet Weekの場で開催していたSecurity Dayも独立したカンファレンスとして開催することにしました。共催団体も社団法人 日本インターネットプロバイダー協会（JAIPA）、有限責任中間法人 日本電子認証協議会（JCAF）が新たに参加し、5団体で開催されました。詳細は下記のURLをご覧ください。

http://securityday.jp/

Security Day 2007 の特徴

2007年12月の新生Seurity Dayでは、良くあるセミナーではなく、もっと現場で活躍していて、悩み、困っている方々の本音を出してもらい、参加者みんなで一緒に考えてゆきたい、そして、それぞれの専門での情報共有を行い、次の一手を探してゆきたい、という熱い思いがありました。

このため、いわゆる講義形式のセミナーではなく、全て120分のパネルディスカッションという大胆な構成をとってみました。アンケートや懇親会でのお話しでは概ね好意的なご意見が多かったように思います。ひざ突き合わせて口角泡を飛ばせて議論する機会が少なくなっているのかもしれませんが、本音での議論が大切なことを再確認しました。

Security Day 2007 のプログラム

Security Day 2007では、できるだけ会場の参加者とも実質的な議論をできるように、共催団体の担当分野も踏まえ、3つのセッションにまとめてみました。各々のセッションを簡単にご紹介します。

(1) プロバイダを取り巻く通信問題

ISPの立場を大きく２つに分けた場合、１）業務を円滑に遂行し、ユーザに安心な環境を提供するためには、通信を管理し、またできるように法的な整備を含め進めていくべきである、という立場の方と、２）通信事業者は法律に規定されている「通信の秘密」を遵守し、またインターネットの発展のためにも、技術的に可能な範囲で極力通信の中身には関与するべきでない、という立場の方の、双方からご意見を聞き、業界として取り組むべき課題について参加者からの意見を聞きながら議論が行われました。

(2)脆弱性対策への期待と現状

脆弱性については、届出制度や開発側の対応についても仕組みが動き出し、かなり改善されてきてはいますが、まだ検討課題が残っている状況です。脆弱性を見つけてしまったり、見つけられてしまったら、利用しているソフトに脆弱性が出てしまったら、顧客が脆弱性のあるソフトを使っていたら、等々、色々な側面から、問題点を掘り下げ、実際に起きている事例なども交えて、どう対応して行くのが良いのか、どのように考えるのが良いのかなどを検証し、より良い対策について考えるためにはどうしたらよいか、について議論されました。

(3)情報セキュリティの国家施策

日本は、数多くの情報セキュリティ施策、セキュリティ制度設計を国家レベルで推進していますが、多くの複雑な施策推進の中で、現状の施策推進における課題、問題点が見えない状況に陥っている部分があります。国家施策としての情報セキュリティ対策の役割、期待を導出するために、パネラーの方々から、現状の制度設計、情報セキュリティ対策の進む方向性の是非、現状の課題について、それぞれの視点からコメントが出され、今後の日本における国家施策のあり方、方向性に関する期待について、会場を交えて忌憚のない意見が交わされました。

Security Day 2007は、結論を導くのではなく、問題点を探りたいと言う趣旨で議論がされました。良かった部分も改善すべき部分もあったと思いますが、このような実質的な議論の必要性も再確認できたと思います。今後もより議論ができる場を作っていきたいと考えます。ご意見等があれば、ぜひ事務局までご連絡いただければ幸いです。

Security Day 2007 のプログラム

09：50 ー 10：00　＜開会のご挨拶＞
SecurityDay2007　実行委員長 やすだ なお

10：00- ー 12：00　＜セッション 1 ＞
ユーザのセキュリティと ISP への期待 ～ ISP はどこまで介入できるのか？～
モデレータ　安東 孝二（東京大学）
パネリスト　小山 覚（サイバークリーンセンター）
パネリスト　永田 勝美（ぷららネットワークス）
パネリスト　河野 美也（Juniper Networks）
パネリスト　田中 邦裕（さくらインターネット）

12：00 ー 13：00　＜お昼休み＞

13：00 ー 15：00　＜セッション 2 ＞
ソフトウェア等の脆弱性対策　～次の一歩は？～
モデレータ　歌代 和正（JPCERT/CC）
パネリスト　鵜飼 裕司（フォティーンフォティ技術研究所）
パネリスト　竹迫 良範（サイボウズラボ）
パネリスト　加藤 雅彦（IIJ テクノロジー）

15：00 ー 15：15　＜休憩＞

15：15 ー 17：15　＜セッション 3 ＞
国家施策としてのセキュリティ対策の役割と期待
～情報セキュリティに関連した制度設計、情報セキュリティ施策の向かう方向性を問う～
モデレータ　中尾 康二（KDDI）
パネリスト　伊藤 毅志（NISC）
パネリスト　松本 泰（セコム）
パネリスト　高木 浩光（産業技術総合研究所）
パネリスト　西尾 秀一（NTT データ）

17：30 ー 19：30　懇親会

JNSAと佐々木会長が「情報セキュリティの日」功労者表彰を受賞

平成20年2月4日(月)に行われた第16回情報セキュリティ政策会議に引き続き、総理大臣官邸内で第2回「情報セキュリティの日」功労者表彰等の記念式典が行われ、JNSAを代表して下村正洋事務局長と、個人受賞の佐々木良一会長が出席し、議長から表彰状が授与されました。

受賞理由

※内閣官房情報セキュリティセンター「『情報セキュリティの日』功労者表彰および受賞者」一覧より抜粋

【特定非営利活動法人
日本ネットワークセキュリティ協会】

ネットワークセキュリティ製品を提供しているベンダー、システムインテグレータ、インターネットプロバイダーなどの情報セキュリティに携わるベンダーが結集した特定非営利活動法人(NPO)として、各事業者が抱える問題解決のための事例等の調査、各種セミナーの開催、不正アクセス対策ガイドラインの作成など、情報セキュリティ対策の向上に顕著な功績があった。

また、情報セキュリティ教育事業者連絡会の事務局を担当するほか、全国各地のNPO等とのネットワークも構築し、情報セキュリティに関する事業者や一般利用者の対策の推進、意識の向上に多大な貢献をした。

【佐々木良一氏】

情報セキュリティ政策会議「技術戦略専門委員会」委員長として、我が国の情報セキュリティに係る研究開発・技術戦略と、その成果の利用方法に関する戦略のとりまとめ(「技術戦略専門委員会報告書」、「同2006」)に尽力。

また、日本セキュリティ・マネジメント学会及び情報ネットワーク法学会等の役職を務め議論を主導しているほか、ASP・SaaSの情報セキュリティ対策及びIPネットワークの脆弱性対策など、我が国の安心・安全なネットワーク環境の構築に向けた活動において顕著な功績・功労があった。

▼情報セキュリティの日功労者表彰および受賞者についてはこちらをご覧下さい。
http://www.nisc.go.jp/isd/2008/commendation.html

JNSAでは、一般市民向けの情報セキュリティ普及啓発活動として「インターネット安全教室」の実施やセキュリティ理解度チェックサイトの開設などを実施、また、情報セキュリティインシデント調査報告書や市場調査など調査研究分野でも目立った活動を行っています。

今回の受賞を糧に、さらに活動の幅を拡げるべく前進していきますので、何卒ご支援御協力をお願い致します。